



OWNER'S MANUAL



FW-06 Instruction Manual for the Electric Motorcycle

商品のご使用前に必ず本マニュアルを熟読してください。マニュアルの内容を理解せずにFW-06にお乗りにならないください。

ユーザーマニュアル



はじめに

この度は、電動モーターサイクルFW-06をご購入いただき、誠にありがとうございます。私ども一同、お客さまがご安全に、本商品を楽しんでお使いいただけることを心より祈念しております。

車両にお乗りになる前に、まずは本マニュアルをご熟読ください。本マニュアルには、オートバイの操作方法、トラブルシューティングやメンテナンスに加え、車両を痛めたり、お乗りのお客様自身や周囲の方を傷つけたりすることが無いよう、そのための手引きが示されています。

また、お読みになられた後も、このマニュアルを安全なところに保管ください。もし中古等でこの車両をお売りになる際には、このマニュアルを新しいオーナー様に譲りいただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

このマニュアルには、印刷時点での最新の情報が掲載されています。とは申せ、商品の継続的な改善のため、ユーザーマニュアルと実際の車両との間に多少の相違点が生じることもあり得ます。従いまして、実際の車両がマニュアルに優先されますこと、予めご承知おきください。

フェロー・テクノロジー（上海）社（FELO Technology(Shanghai) Co., Ltd.）では、本マニュアルの内容について、予告なく変更する権利を有しています。また、内容の変更について、何ら責任を負うことはない旨、ご承知おきください。

もしこのマニュアルの内容についてご質問がある際には、ご遠慮なくお買い求めの正規販売店にお尋ねください。なお、フェロー・テクノロジー社に書面での了解を得ることなく本マニュアルの一部または全部について引用ないしは印刷等を行うことは認められていません。また、車両への不正改造等は禁じられています。



はじめに	ii	機能	22
重要な情報	3	ライディングモード	22
概要	3	スマートキーシステム	23
車両情報	4	盗難防止アラーム	26
FELO MOTO APP (アプリについて)	5	ABS (アンチロックブレーキシステム)	26
安全に乗るために	6	ランプパーキングファンクション	27
安全に乗るための手引き	6	ETCS トラクションコントロール	27
各部の名称と操作	9	ライディング・ガイドライン	28
メイン・コンポーネンツ	9	走行前の準備について	28
メイン・エレクトリカル・コンポーネンツ (電装品)	11	エンジン (モーター) 始動について	29
メーター	12	シートクッション	30
インジケーター	13	ステアリング (ハンドル) ロック	31
スイッチ	14	バッテリーの充電	32
キー	17	走り出そう	34
収納	18	ブレーキング	35
チャージングポート (充電ソケット)	20	駐車	36

| メインテナンス 42

定期メインテナンス	42
メインテナンススケジュール	43
部品のメインテナンスについて	45

| トラブルシューティング 54

車両が走行しない	54
メインバッテリーが充電できない	54
スマートキーが正常に作動しない	55
タイヤのパンク	55
灯火類の異常	56

| その他の情報 57

車両のお手入れについて	57
車両の保管について	59
車両の輸送について	60
環境保護について	60

| 仕様諸元 61





主要諸元	61
リチウムイオンバッテリー	62
電装部品仕様	62
フューズ	62

| インデックス 63



概要

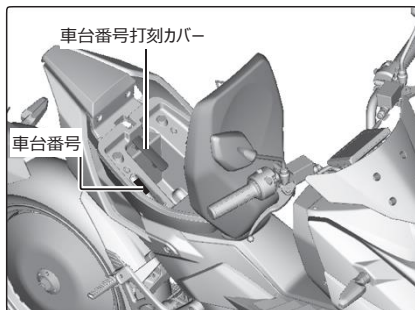
このユーザーマニュアルでは、重要な情報や周囲については、下記のシンボルで説明しています。

-  **危険** 指示に従わないと、深刻な怪我、もしくは死亡事故につながる恐れがあります。
-  **警戒** 指示に従わないと、深刻な怪我、もしくは死亡事故につながる恐れがあります。
-  **注目** 指示に従わないと、ご自身が負傷する恐れがあります。
-  **Caution** 車両やそのほかの所有物に損害を与えないためにも、特に注意してください。

お客様ご自身や、周囲の方の安全が第一です。また、車両を安全に、正しく取り扱うことは、オーナーとしての義務でもあります。

上記のシンボルに関連する操作は、本ユーザーマニュアルで案内するほかのさまざまな情報と合わせ、安全に関する正しい手順や決定を行うために必要不可欠なものです。この情報は、ご自身や周囲の人、モノへの危害をなくすために必要なものなのです。必ず、マニュアル中の指示に従って操作を行い、ご愛車を正しくメンテナンスしてお使いください。

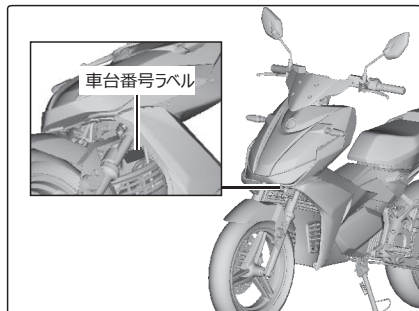
車両情報



車台番号および番号打刻ラベルは、それぞれの車両に固有のものであり、車体を特定するのに必要な情報です。これはまた、車両を登録する際に必要なものとなります。くわえて、部品発注時にも必要となる場合があります。車台番号とラベルは、下図に示された箇所に打刻または貼付されています。必ず車両購入時にお確かめください。

車台番号

車台番号は車台フレーム部に打刻されています。シート下のカバーを外すと確認いただくことができます。



車台番号ラベル

車台番号ラベルは、フレームヘッド下部に貼付されています。ラベルには車両製造にかかわる情報が示されています。



FELO MOTO APP (アプリについて)

FELO MOTO APP (アプリ) をお手持ちのスマートフォンにダウンロードすることで、車両と接続し、下記のような情報を管理することが可能になります。

- バッテリーの状態
- 車両の状態について
- 車両の点検について
- 走行の履歴について

アプリストアで“FELO MOTO”を検索するか、下図のQRコードをスキャンし、公式ウェブサイトから FELO MOTO APP (アプリ) をダウンロードし、またそのマニュアルに従って操作してみてください。

なお、2023年1月現在、まだアプリは日本国内での配布に対応していません。今しばらくお待ちください。





安全のための手引き

オーナーの責任

車両の所有者（オーナー）として、ご自身の車両を安全に、かつ正しく運転していただく責任があります。ご乗車になる前に、必ず下記について十分に理解してください。

- 運転手は、安全かつ正しい運転技術を身に付け、適切な免許を所有している必要があります。
- 運転時にはその国の交通安全法規を遵守してください。
- 必ず本マニュアルで示す警告、注意に従って運行し、また定められた点検整備を実行してください。

乗車時の服装

乗車時には必ず乗車用ヘルメットをかぶり、ゴーグル等で眼を守り、交通法規にあった視認性の高い服装を選びましょう。運転中のご自身の安全や天候、道路状況に応じて正しい服装を選びましょう。

ヘルメット

交通法規に即した、視認性の高い色合いの適切なサイズのものをおすすめします。ヘルメットをかぶらないで運転することは、転倒時などに死亡する恐れがあります。

グローブ

耐摩擦性に優れた、5本指のグローブを着用しましょう。

ブーツ

運転を妨げない、保護力の高いブーツを着用しましょう

服装

安全性に優れた、長袖の視認性の高い服装を選びましょう。合わせて、運転しやすい、安全性に優れたパンツ（ズボン）を履きましょう。

安全運転のために


運転前に、体調が万全であること、集中力を欠くことが無いこと、またアルコールや薬物の影響下でないことを確認しましょう。

- 運転中は必ず両手をハンドルバーに、両足をフットレストに乗せておくこと。
- 絶えず周囲に注意を払い、万が一の急ブレーキや急な動きに備えましょう。
- 加減速をスムーズに行いましょう。ウィンカーを右左折や車線変更時の手前から適切に使用し、必要に応じて警音器も活用しましょう。
- 疲労感があるときは運転を避けましょう。倦怠感や油断は正しい判断を損なう原因になり、安全な運転や正しい判断を阻害しかねません。
- 車両を適切に管理し、常に最善の状態に保つようしましょう。
- 雨天時などの滑りやすい路面では制動力は大幅に低下します。状況に応じて速度を落とし、注意して走行しましょう。



事故などに遭遇し、又は起こしてしまったときは：

ご自身の安全確保が最優先です。ご自身、もしくはどなたかがお怪我されていた場合、その状況を注意深く判断し、安全な運転継続の可否を判断しましょう。必要に応じて、救急を要請すること。事故にほかの方や車両が関係している場合、交通法規に準拠して対応してください。

もし運転を継続する場合、パワースイッチをOFF  (OFF) の位置に戻し、車両の状態を点検しましょう。バッテリーからの液漏れがないか、主要な締結部分が傷んだり緩んだりしていないか、ハンドルバーや左右のブレーキ、ホイールが正しく動作するかをまず点検し、最初のごくゆつりと、注意深く走らせましょう。その場でわからなくても異常が発生することがありますから、必ずお買い求めの販売店で後日早急に点検を受けるようにしてください。


転倒や事故後、以下の点に注意してください：

- もし激しく転倒した場合、配線に影響を受け、強い電気ショックに見舞われる恐れがあります。P11にあるような電気関連部品や接続コネクタ等には手を触れないこと。
- バッテリー電解液に直接手を触れないこと。事故の衝撃によってバッテリーが損傷し、内部の電解液が漏れる可能性があります。電解液に直接手で触れたり、目に入らないように注意してください。また、非常に酸化性が強いため、万が一接触した場合には十分以上の水ですすぎ、医療機関での診察を受けてください。
- 万が一出荷した場合は、適切な消火器を用いて消化してください。

注意

この車両は96Vのリチウムイオンバッテリーを搭載しています。事故などで損傷を受けた場合、適切に廃棄しないと、深刻な負傷や死に至る事故を再発させかねません。万が一事故に遭った場合、必ずマニュアルで説明している手順に則って行動してください。

バッテリー

バッテリーから異臭を感じた場合、何らかの異常が発生している恐れがあります。速やかに車両を屋外の安全な場所に停止させ、可燃物から遠ざけてください。イグニッションスイッチをOFFの位置  (OFF) に返し、お買い求めの販売店にご連絡ください。充電方法については、38ページ意向をご参照ください。ご自身でバッテリーを取り外したり、改造するようなことはおこなわないでください。

ブレーキ

以下の点に十分に注意を払いましょう：

- 急ブレーキを避けましょう。急ブレーキは車体の安定性を損ないますから、急ブレーキをかける事態に陥る前にはまず丁寧な減速を。急ブレーキで安定性を損なうと、スリップしたり、転倒する恐れがあります。
- グリップの弱い路面では運転に十分に注意しましょう。こうした路面ではタイヤは極めて滑りやすく、制動距離も伸びがちになります。
- 長くまた急な坂道では、連続してブレーキを使用するとブレーキが過熱し、制動力に影響が生じる恐れがありますから十分注意して使用しましょう。

- 制動力を使い切るためには、前後のブレーキを同時に用いること。

アクセサリーの装着や改造について

アクセサリーの装着や車両の改造は、車両の性能や安全性を損なう恐れがありますため、お控えください。車両への改造は車両の保証の適用外となります。また、時として公道で走行するには違法な行為である可能性もあります。アクセサリーをお取り付けになる際には、まずどうすれば安全で、かつ法規に適合しているのかをよく調べましょう。

危険

不適切なアクセサリーの装着や改造は、事故につながりかねず、ご自身や周囲の人への傷害、あるいは死亡にもつながりかねません。このマニュアルにあるすべての指示を従って、アクセサリーの装着や改造を行ってください。

積載について

- 過積載は車両の操作性はもちろん、制動力や安定性にも影響を与えます。過積載は避け、指定された最大積載量をお守りください。

最大積載量：150 kg

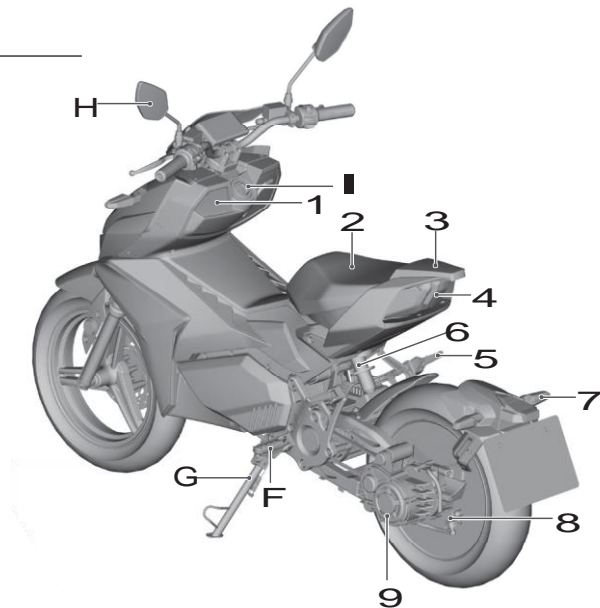
- 重量物を積載する場合、安全な速度をお守りください。
- 積載物は確実に固定すること。車両の上で積載物が動くようなことが無いよう確実に固定し、状況に応じて固定しなおすなど注意を払うこと。
- 灯火類やモーター付近にはものを積まないこと。

危険

過積載や正しくない積載、あるいは多人数での乗車は、事故の原因となるばかりか、大けがや死亡事故につながりかねません。マニュアルに示された積載方法に従ってください。

メインコンポーネンツ

- 1 グローブボックス
- 2 シート
- 3 パッセンジャーシート
- 4 テール/ブレーキライト
- 5 パッセンジャー・フットレスト
- 6 リアショックアブソーバー
- 7 リアウインカー
- 8 リアブレーキシステム
- 9 ギアボックス
- F ライダーフットレスト
- G サイドスタンド
- H 後写鏡 (リアビューミラー)
- I パワースイッチ



J ストレージコンパートメント (シート下収納)

K フロントウインカー

L ヘッドライト

M フロントフェンダー

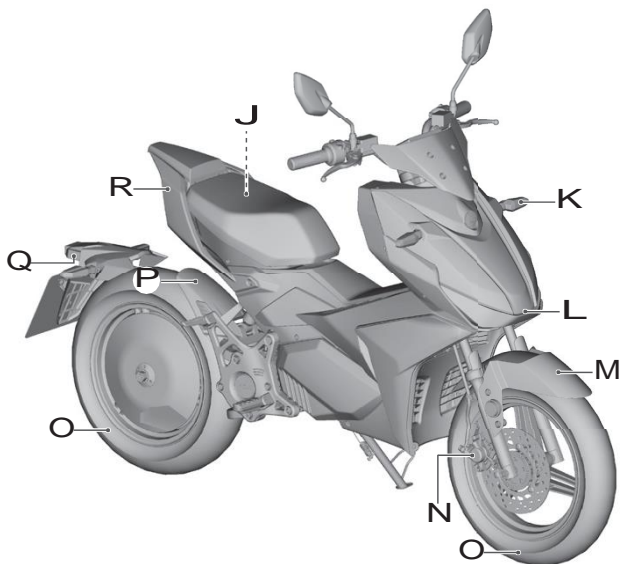
N フロントブレーキシステム

O タイヤ

P リアフェンダー

Q ナンバー灯

R リアウインドディフレクター



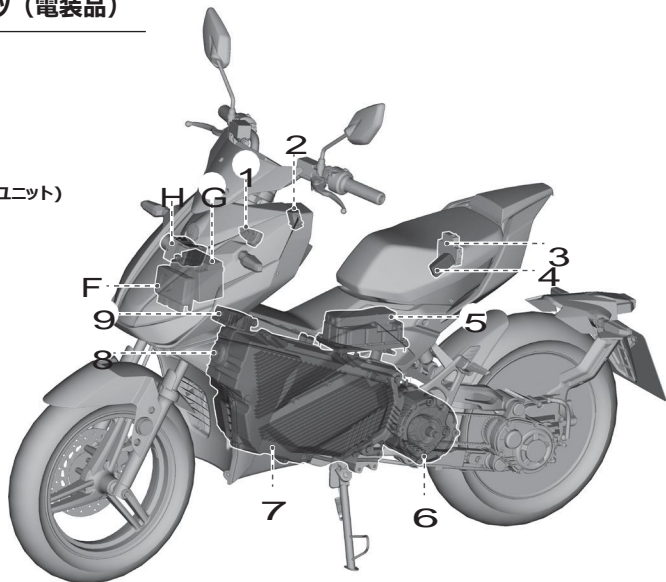


メイン・エレクトリカル・コンポーネンツ（電装品）

- 1 メインバッテリー充電ポート
- 2 USB充電ポート
- 3 サーキットブレーカー
- 4 OBDコネクター
- 5 MCU(モーターサイクルコントロールユニット)
- 6 モーター
- 7 メインバッテリーケース
- 8 ホーン（警音器）
- 9 DC/DCコンバーター
- F VCU（ピークルコントロールユニット）
- G 12Vバッテリー
- H ABSコントローラー

注意

電装系の一部または全部に異常が見られた場合、必ず車両を速やかにお買い求めの販売店にお持込いただき、車両全体の点検並びに修理を依頼してください。



1 時計

時計は24時間表示。VCUが自動的に時間修正を行います。

2 スピード・ディスプレイ

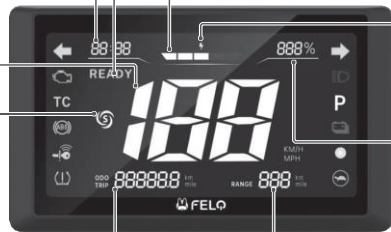
現在の速度を表示します。

3 スポーツモード

スポーツモード使用時に点灯します。ライディングモードについては22ページ参照。

4 オドメーター

オドメーターは合計積算距離を表示し、99,999.9kmに達すると自動的にリセットされます。積算距離と走行距離は交互に表示されます。



5 READY インジケータ

走行可能状態のときに表示されます。

6 リアルタイム バッテリー残量計

バッテリー残量の概算を示します。バー1本が20%に相当します。

7 充電インジケータ

充電中はこのインジケータが点灯します。

8 リアルタイム・バッテリー容量表示計

9 走行可能距離残

VCUが計算する走行可能距離残が表示されます。OBD故障診断モード時には、トラブルコードが表示されます。

メーター

表示機能の点検

パワースイッチをON (ON)の位置にすると、すべてのモードおよび数字表示部分が点灯します。スポーツモードインジケータ、READYインジケータ、充電状況インジケータはそれぞれ状況に応じて点灯します。上記にある表示機能が一つでも不足しているような場合、お買い求めの販売店にご連絡いただき、トラブルシューティングを行ってください。



各部の名称と操作

1 左折インジケータ

左折方向指示器を出したとき、もしくはハザード灯使用時に点滅します。

2 異常警告インジケータ

エラーコードを検知すると、点灯します。

3 TCインジケータ

ETCS(電子制御トラクションコントロールシステム)が起動すると点灯します。

4 ABSインジケータ

車両の速度が5km/h以下の場合、点滅します。5km/hを超えると消灯。ABSシステムに異常がある場合は点灯します。

5 スマートキー・インジケータ

スマートキーの電池が消耗したとき、異常があったとき、もしくはスマートキーとの連携がうまくいっていない時に点灯します。

6 タイヤ空気圧異常インジケータ

タイヤ空気圧の異常を検知すると点灯します。

7 右折インジケータ

右折方向指示器を出したとき、もしくはハザード使用時に点滅します。

8 ハイビーム・インジケータ

ハイビーム使用時に点灯します。

9 パーキングモード・インジケータ

サイドスタンドが出ているときに点灯します。サイドスタンド収納後、スタートスイッチ(15ページ参照)を押すと、消灯し、走行可能になります。

10 バッテリー残量警告インジケータ

バッテリー残量が10%以下になると点灯します。点灯中はスポーツモードが使えなくなります。

11 ロースピードモード・インジケータ

バッテリー残量が5%を切ると点灯し、車両は自動的に低速走行モードになります。最高速度は30km/hに制限され、早急な補充が必要ですが。



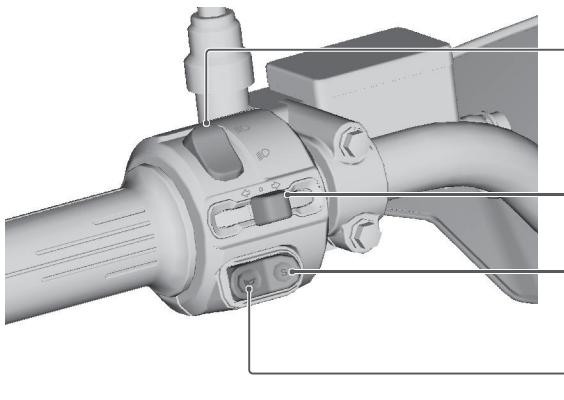
インジケータ

表示機能の点検

パワースイッチをON (ON) の位置にすると、上記すべての表示が点灯し、すぐに消灯します。説明されたような表示の異常や警告の表示があった場合は、速やかにお買い求めの販売店に相談し、トラブルシューティングを行ってください。

スイッチ



左側集中スイッチ



1 デイマースイッチ

-  ハイビーム
-  ロービーム

2 方向指示スイッチ

-  左折方向指示器が点滅
-  右折方向指示器が点滅

スイッチを戻せば、点滅も終了します。

3 スポーツモードスイッチ (Sギア)

スイッチを押すことで、スポーツモード (Sギア) に入れます。22ページの説明を参照してください。

4 ホーンボタン

警報器を鳴らすときに押します。



スイッチ（続き）

右側集中スイッチ

5 ハザードスイッチ

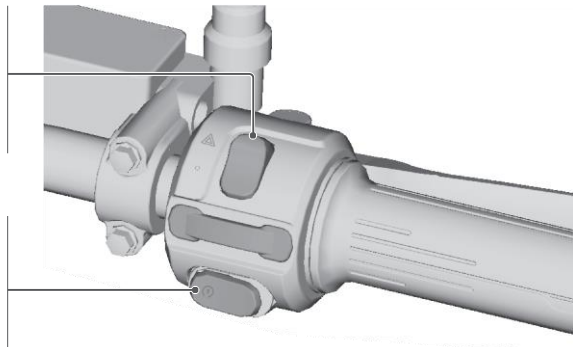
 ハザードを起動します（同時に4か所すべての方向指示灯が点滅します）。

ハザードを消灯します。

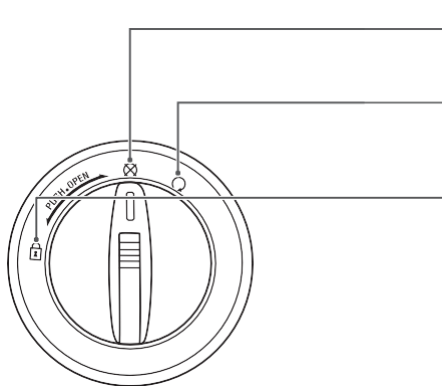
ハザードランプは、緊急事態が発生したり、車両を事故などに遭遇させかねないような個所に止めざるを得ない時などに、交通のほかの運転者に警告を与えるため、使用します。

6 スタートスイッチ

発進時には、まずサイドスタンドを格納し、このスイッチを押すことで、パーキングモード（Pギア）が解除され、READYインジケータが点灯します。走行を終えた時には、このスイッチを押すことでパーキングモード（Pギア）に入り、インジケータが点灯します。



パワースイッチ



1 OFF

パワーシステムをシャットダウン（電源を切断）します。


2 ON

パワーシステムをアクティベート（電源を投入）し、走り出す準備をします。

3 ステアリングロック

ステアリングハンドルをロック（固定）します。

注意

パワースイッチを  (ON) の状態で放置することは、バッテリーを損耗します。乗車しない時には、電源は切っておきましょう。



各部の名称と操作

キー

車両には、スマートキー1個と、メカニカルキー2本が付属します。

キーを紛失した場合は、ご購入の販売店にご相談ください。

注意

キーは必ず持ち歩き、シート下ラゲージスペースやフロントグローブボックスに入れないこと。

スマートキーの使い方

スマートキーの使用については、23ページの可動距離を確認のこと。

もしダッシュボード上のスマートキーインジケータが点灯していた場合、スマートキーを手で振って、スリープモードから起動させてください。起動しない場合、バッテリー切れの可能性あります。交換用バッテリーには、CR2032というボタン型バッテリーをご使用ください。

スマートキー前面



スマートキー後面

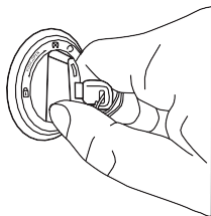


スマートキー内部



メカニカルキーの使用方法

メカニカルキーは、パワースイッチの中央にあるノブにキーを挿入して、使用します。



収納

ストレージ・コンパートメント（収納）

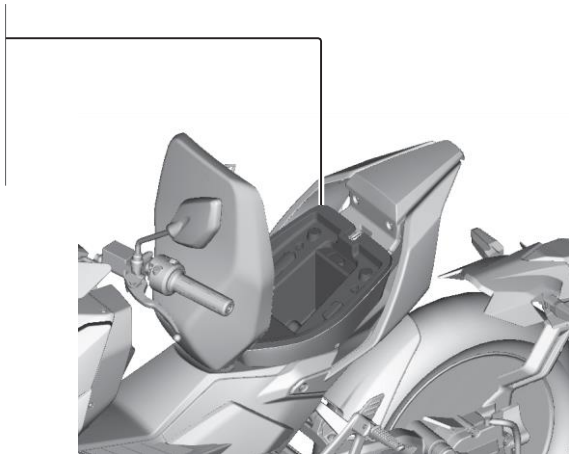
ストレージ・コンパートメント（小物入れ）はシート下に位置しています。シートの開閉については、30ページをご参照ください。下記に示す最大荷重を超えて積載しないこと。

最大荷重： 10 kg

ストレージ・コンパートメントには、ビニールケースなどに収納した本マニュアル、車両の登録書類、保険証などを収納し、必要に応じていつでも取り出せるようにしておくことをおすすめします。

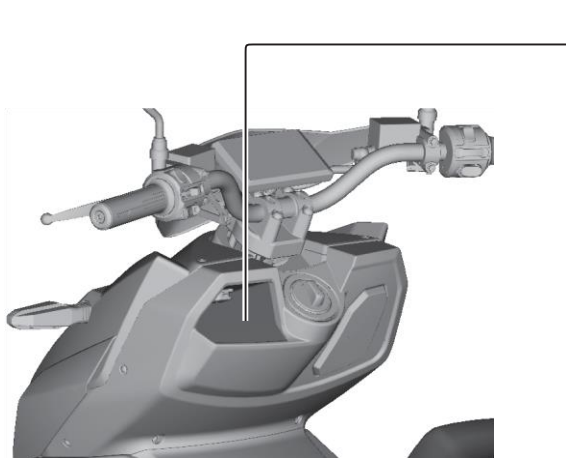
注意

貴重品や壊れやすいものを収納しないこと。





各部の名称と操作



グローブボックス

グローブボックスはハンドルバー左側下部に用意してあります。

最大許容荷重： 1.5 kg

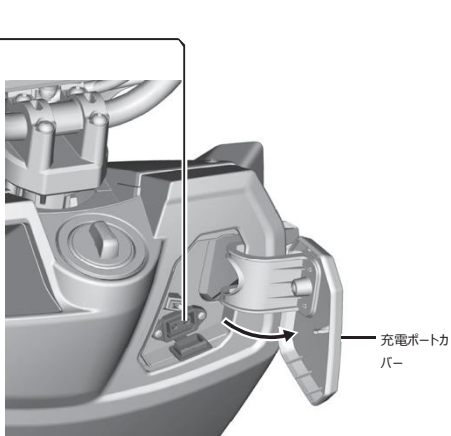
注意

貴重品や壊れやすいものは収納しないこと。盗難などを避けるためにも、車両を離れる際にはグローブボックス内に物を残さないこと。

チャージングポート（充電ソケット）

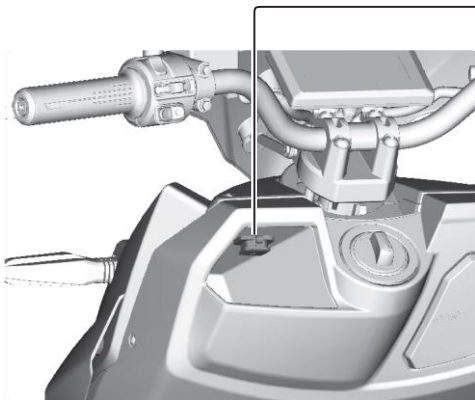
主電源充電ポート（ソケット）

主電源の充電ポート（ソケット）は、右側グローブボックスの位置に用意してあります。充電ポート（ソケット）カバーを開き、ポート（ソケット）カバーを外して、充電してください。バッテリーの使用にかかわる注意事項については、37ページをご参照ください。また、充電方法については、38ページをご参照ください。





各部の名称と操作



USB 充電ポート

USB充電ポートがグローブボックスの上部に装備されています。ご使用の際はカバーを外してください。タイプAのソケットが用意されています。

最大充電出力：10 W (5 V/2 A)

ご使用にあたっての注意

- ソケットは注意して扱い、使用中は左右に振れたり無理な力を加えないこと。
- パワースイッチがONの状態のときのみ、電力は供給されます。
- USB充電ポート内に異物や水などが浸入しないよう、使わない時は必ずカバーを閉じておくこと。
- 接続中の機器が動いたり車体の揺れなどでポートが傷むことが無いよう、危機は正しく接続し、影響を受けにくいように設置すること。
- 洗車時には、必ずデバイスやケーブルをポートから取り外し、カバーを閉じること。
- 走行中は接続したデバイスを操作しないこと。

ⓘ 注意

- 過剰な電圧を必要としたり、加熱しやすいデバイスは接続しない。
- 濡れているときは充電ポートを使用しないこと。
- 接続したデバイスやケーブルがステアリング操作などに悪影響を及ぼさないよう注意すること。



ライディングモード

基本的な使用方法

FE-06は3つのスピードモードを持ちます。

- ノーマルモード：

ノーマルモードは平坦な道や渋滞しがちな道、雨天など状況の悪い時も用います。ノーマルモードでの最高速は80km/hです。

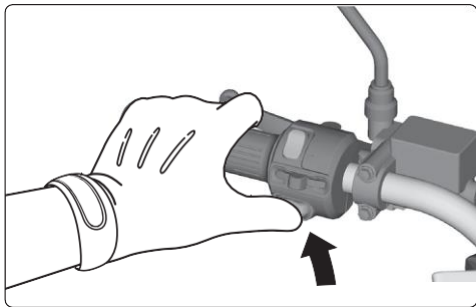
- スポーツモード：

スポーツモードは上り坂や好天下の見通しの良い条件下で使用します。スポーツモードでの最高速は110km/hに達します。

- ロースピードモード（低速モード）：

バッテリー残量が5%を切ると、最高速は30km/hに抑えられ、バッテリーの使用を抑えるようになります。この場合、ダッシュボード上のロースピードインジケ^①ターが点灯します。

起動方法



走行中にスポーツモードに入るには、S-ギアスイッチを押し下げ、ホールドします。スイッチから手を離すとスポーツモードは終了し、ノーマルモードに戻ります。



スマートキーシステム

スマートキーの技術仕様

周波数：	2400MHz
接続先：	電子制御VCU
動作温度：	-20°~60°C
定格電圧：	3V
アンテナ形式：	ブルートゥース規格 ブラケットスティール アンテナ
増幅度（ゲイン）：	1.37dbi

VCUの技術仕様

周波数：	700-2690MHz
使用目的：	電子制御式VCU
動作温度：	-20°C - 60°C
アンテナ形式：	4G/BT用ブラケットスティールアンテナ GPS用セラミックアンテナ
増幅度（ゲイン）：	1.37dbi

基本操作

スマートキーシステムは、車体の操作をメカニカルキーを挿入することなく行えるようにする仕組みです。FW-06のスマートキーは、そのキーが車体に認識/登録されているかを双方向通信によって認証しています。スマートキーシステムは低強度の電波を使用していますので、一部の医療機器（ペースメーカーなど）に影響を与える恐れがあります。

注意

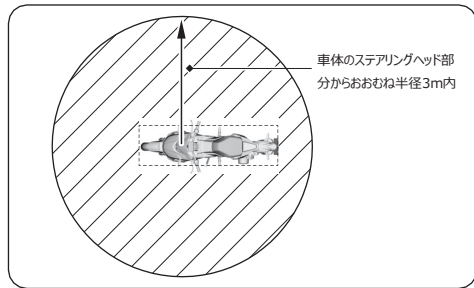
FW-06に乗るときには必ずご自身でスマートキーをお持ちください。スマートキーをグローブボックスやシート下収納に入れないこと。パワースイッチがONの位置にあるときには、認証されたスマートキーがなくても車両動かすことが可能です。車体から離れる際には、必ずステアリングロックを施し、パスイッチをOFFにすること。

動作範囲

パワースイッチがONかOFFかによって動作範囲は異なります。また、スマートキーシステムは、以下のような条件下では正しく動作しないことがあります。

- スマートキーのバッテリーが消耗しているとき。
- 強力な電波を発したり、ノイズを発しているような機器が周辺にある場合（例：テレビ塔の近辺、電波塔や発電所の近辺、放送施設の周辺、空港など）。
- ワイヤレス・コミュニケーションデバイス（ラップトップPC、ラジオ、携帯電話など）とスマートキーを同じ場所に置いている場合。
- スマートキー本体が金属に触れていたり金属でおおわれている場合。

システムは一般に下図の斜線領域で作動します。







スマートキーのご使用にあたってご注意いただきたいこと:

- スマートキーを落としたり、重量のあるもので押しつぶしたりしないこと
- スマートキーを直射日光下にさらしたり、高温な条件や高温な条件下におかないこと。
- スマートキーの表面を傷つけたり、穴をあけたりしないこと。
- スマートキーを強い磁性体（マグネットキーホルダーなど）の近くにおかないこと。
- スマートキーは電磁波を発生するものから遠ざけて保管すること（テレビ、コンピューター、低周波マッサージ機など）。
- スマートキーは液体から遠ざけておくこと。万が一濡れた場合は、速やかに柔らかい布などで拭き取り、乾燥させること。
- 車体を洗車するときには、スマートキーは車体から遠ざけておくこと。
- スマートキーを燃やさないこと。
- スマートキーを超音波洗浄機に入れないこと。
- もしスマートキーが燃料（ガソリン）やワックス、潤滑油などに触れた時は、速やかに拭き取ること。
- バッテリー交換時以外は、スマートキーを分解しないこと。バッテリー交換時も取り外せるのはカバーのみとし、スマートキーの他の部品を分解しないこと。
- スマートキーをなくさないこと。万が一紛失した場合、メーカーで再登録する必要があります。紛失時には速やかにお買い求めの販売店に連絡してください。
- スマートキーを不正に改造（構造を変更したり、周波数を変えたり、電波の到達距離を延長したり、出力を変更したり、RFパワーアンプを追加したり、アンテナを変更したり）しないこと。
- 他の合法的な無線局からの電波発信を妨害してはなりません。また、仮に非合法的な無線局からの電波の発信があったとしても、一方的に妨害することは不法行為になります。
- スマートキーの電波は、産業/科学/医療機器などや、合法的な無線局などが発生させる電波や電磁波の影響を受ける可能性があります。
- もしこうした他の電波/無線発生源からの干渉によって誤作動等が生じる恐れがある場合には、スマートキーの使用を一旦停止し、メカニカルキーでの使用に切り替えてください。
- 電波の使用の規制が適用される特定の条件下（電波天文台や気象レーダー局の周辺、衛星地球局、計測/制御/測距/受信/航法局など、空港など、自衛隊や米軍基地周辺など、航空機無線、電磁環境保護地域など）でのスマートキーのご使用は、それぞれの地域、国の法律や規制等に従って行う必要があります。十分に注意してください。
- 空港の滑走路の中心から半径5,000m以内の場所では、スマートキーのようなリモートコントロール機器の使用は禁じられています。

盗難防止アラーム

基本情報

盗難防止アラーム（警報器）は、車両の盗難のリスクを軽減させる働きがあります。パワースイッチがOFF  もしくはロック  位置にある場合、かつアラームシステムがセットされている場合には、盗難防止アラームが起動状態に入ります。この時に、車両への振動や車両の移動などを検知すると、アラームが鳴り響きます。

盗難防止アラームは、低周波の電波を用いているため、ペースメーカーのような医療機器に影響を及ぼす恐れがあります。

注意

盗難防止アラームは、車両のバッテリーの残量が少ない場合、起動できません。

盗難防止アラームが起動しない場合

以下のような状態は、アラーム用のバッテリーが消耗している、もしくはシステム上の不具合の可能性がります。ご購入先の販売店にご相談ください。

- アラームが鳴らない。
- アラームは鳴るが、自然に音が小さくなり、やがて消えてしまう。
- アラームが止まることなくなり続けてしまう。

ABS (アンチロックブレーキシステム)

FW-06にはフロントブレーキにABSを搭載しています。ABSは、急ブレーキなどの場合でも、ホイールがロックして横滑りしないように補助する仕組みです。

- ABSは制動距離を縮めるものではありません。場合によっては、ABSによって制動距離が伸びることもあります。
- ABSは時速5km以下では動作しません。
- 制動中、レバーに細かい振動が伝わるがありますが、これは正常です。
- ABSが正常に動作するよう、推奨タイヤを装着してください。

危険

- ABSの有無にかかわらず、旋回中のブレーキの使用は転倒につながる恐れがあります。特に旋回中に急ブレーキをかけることは横滑りにつながりやすく、ABSでもこれを制御することはできません。走行にあたっては直線部分で十分に減速し、旋回中にブレーキを使用しないようにしましょう。
- ABSを正しく使用しないと、事故につながる恐れがあります。ABSは不整路や、運転者の判断ミス、もしくは不正確なブレーキ動作を助けるものではありません。やむを得ず悪路を走行する際には、速度を落として丁寧に運転するなど、適切な判断が必要です。
- 滑りやすい路面や旋回時には、丁寧にブレーキ動作を行うこと。不整路などで急ブレーキをかけることは、車両のコントロールを失うことになりかねません。
- 前方を走行する車両に接近しすぎることは、追突事故につながる恐れがあります。特に速度が高い場合、制動距離は伸びますから、必ず前車との車間距離を適切に設け、十分に注意して運転しましょう。



ランプパーキングファンクション

ランプパーキングファンクション（坂道停止機能）は、車両が坂道などで停止する際に、動いてしまわないようにする機能です。これは以下の手順で起動させられます。

- 1 車両を、ライディングモード、もしくはダッシュボードの表示を「READY」状態にします（P34参照）。
- 2 ブレーキレバーを握ります。
- 3 エレクトリックスタートスイッチを押し、ランプパーキングファンクションを起動します（P15参照）。

ETCS トラクションコントロール

ETCS 電子制御トラクションコントロールシステムは、走行中の車両のホイールがスリップすることを防ぐための機構です。VCU(ビークルコントロールユニット)が前後輪の速度差を検知し、その差が大きすぎる場合、ホイールがスリップしていると判断して、出力を制限し、前後輪の速度差が無いように調整します。

- ETCSトラクションコントロールシステムが動作しているときは、ダッシュボード(メーター)内のTC(トラクションコントロール)インジケーターが点灯します(P13参照)。



走行前の準備について

乗車前には必ず下記の項目を点検し、点検項目を確実に実施の上、またマニュアルに記載されている点検スケジュールを遵守して、安全に車両をお楽しみください。

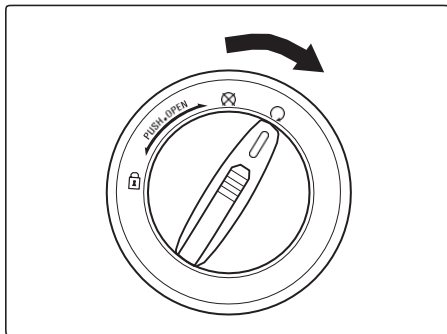
点検項目	点検すべき内容	参照箇所
バッテリー容量	バッテリー残量を確認し、必要に応じて充電する。	12ページ
ステアリングハンドル	ステアリング操作時に確実にスムーズであることを確認する。	-
スロットルグリップ	スロットルグリップの遊びを点検、適切に調整する。	52ページ
ブレーキレバー	ブレーキがスムーズに動作することを点検する。	35ページ
前後ブレーキの状態	ブレーキ液のレベルやブレーキパッドの損耗を点検する。	49-50ページ
メーター、灯火類、スイッチ	メーター（ダッシュボード）、灯火類やスイッチが正しく機能しているかを点検する。	12-16ページ
サイドスタンドスイッチ	確実に動作していることを確認する。	51ページ
ホイール及びタイヤ	ダメージを受けていないかを点検する。	-
	タイヤのトレッド面の状態や空気圧などのコンディションを点検し、必要に応じて調整する。	46-48ページ



エンジン（モーター）を始動しましょう

FW-06を運転するときは、スマートキー、もしくはメカニカルキーを必ず用意すること。

（17ページ参照）



- 1 パワースイッチを操作可能にする（スマートキー操作については30ページ参照）。
- 2 ステアリングロックを解除する（31ページ参照）。
- 3 パワースイッチをONにする（33ページ参照）。

注意

万が一転倒した場合、まずパワースイッチをOFFにし、その後丁寧にマシンを点検してください。



シートクッション

シートを開ける

メカニカルモード：

- 1 P17を参照し、メカニカルキーを使用する。
- 2 パワースイッチを反時計回りに回す。
- 3 シートクッションが解錠されれば、パワースイッチは自動的に元の位置に戻ります。

スマートキーモード：

- 1 スマートキーを手にし、もしくはポケット等に入れて、車両に接近します。
 - 2 パワースイッチを押し込み、7秒以内にスイッチをOFFから反時計回りに回してください。シートが開きます。
 - 3 シートクッションが解錠されれば、パワースイッチは自動的に元の位置に戻ります。
- スマートキーモードは、電源が入っている間のみ動作します。電源が落ちた後は、メカニカルキーを使用してシートを開閉してください。

注意

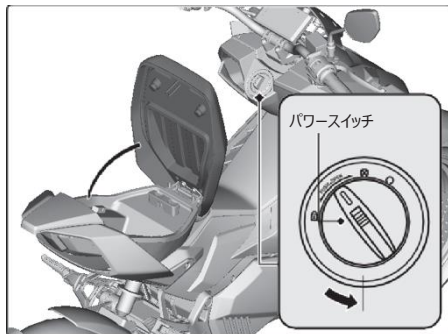
パワーインジケータが消灯するまでは、解錠可能です。車両を離れる前に、電源が落ちていることを確認しましょう。

シートを閉じる

シートを押し下げ、後部のロックが確実にかかるまで、押し込みます。サドルを手で引き戻し、確実に施錠されていることを確認しましょう。

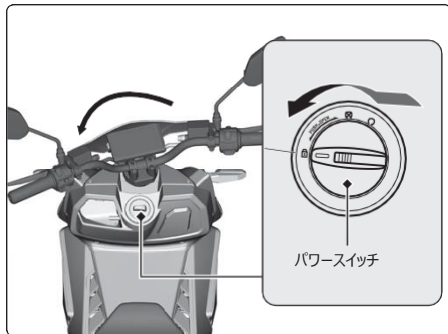
注意

シート下の収納にキーを仕舞わないこと。パワースイッチをオフにしたのちにシートを開けようとしても、メカニカルキーがないと解錠できません。万が一、メカニカルキーをシート下に収納し、電源を落としてしまった場合には、速やかにお買い求めの販売店にご相談ください。






ステアリング（ハンドル）ロック





ステアリング（ハンドルバー）をロックする

メカニカルモード：

- 1 ステアリングハンドルを左側目いっぱい切る。
- 2 メカニカルキーを挿入し、パワースイッチを押し込んで左側に回して、 ロックポジションにする。
- 3 ステアリングハンドルバーはロックされます。7秒間その状態で待つことで、電子的にもロックが完了します。


スマートキーモード：

- 1 スマートキーを手を持ち（あるいは近くに置き）、車両に接近します。
- 2 パワースイッチをOFF  から押し込んで左に回し、 ロックの位置に固定します。
 - パワースイッチの動作（ロック位置への移動）は、パワースイッチインジケータランプが消灯してから7秒以内に行ってください。時間内にできない場合、パワースイッチを再起動させてください。
- 3 ステアリングスイッチがロックされました。7秒間待つことで、電子的にもロックされます。




注意

ステアリングロックは、ハンドルバーを右側に一杯に切った位置でも動作しますが、これはメーカーで想定している使い方とは異なります。車両に損傷を与える恐れもあるため、こうした使用はお控えください。

ステアリング（ハンドル）ロックを解除する

- メカニカルモード： メカニカルキーを挿入し、パワースイッチを押しながら右に回し、
 オフの位置に戻します。
- スマートキーモード： パワースイッチを押し込み、電源を入れます。次いで、パワー
スイッチを押しながら右に回し、オフの位置に戻します。

注意

車両から離れる際には、パワースイッチがOFF  もしくはロック  の位置にあるようにしてください。ステアリングロックはパワースイッチがOFF  にあり、かつパワースイッチインジケータが点灯していない際には、動作できません。この状態でロックさせるには、パワースイッチを一度押し、電源を入れてから作動させてください。また、パワースイッチインジケータが消える前は、持ち主以外がキー（スイッチ）を動作させることが可能です。車両から離れる際には、必ずインジケータが消灯していることを確認しましょう。

バッテリーの充電

FW-06には2種類のバッテリーが搭載されています。一つは、小型の鉛蓄電池で、もう一つは大型のリチウムイオン電池になります。小型の電池は車両の前部に搭載され、大型のバッテリーはシャシー中央に搭載されています（P11参照）。

警告

バッテリーを分解したり改造したりしないこと。

注意


バッテリーは「スリープモード」で出荷されているため、ご使用前に一度満充電し、これを解除する必要があります。これはお買い求めの販売店で行ってください。




ライディング・ガイドライン

パワースイッチを解錠する

メカニカルモード：

メカニカルキーを挿入し、パワースイッチを  ONの位置に回して、車両の主電源を入れます。



スマートキーモード：

- 1 スマートキーを手元を持ちながら車体に接近します。
 - 2 パワースイッチを押し下げ、7秒以内に  ONの位置に回すことで、主電源を入れることができます。
- スマートキーシステムが正しく動作しない場合は、P55をご参照ください。

注意

万が一キーを走行中に紛失した場合でも、車両を継続して走らせ、パワースイッチを切る（OFFにする）ことが可能です。ただし、ひとたびOFFにすると、そのあとは車両の操作ができなくなります。お買い求めの販売店に連絡し、新しいキーを手配してください。

パワースイッチを施錠する

- 1 車両を安定した路面に停車させます。
- 2 パワースイッチをOFF、もしくはハンドルロック  の位置に合わせてください。

注意

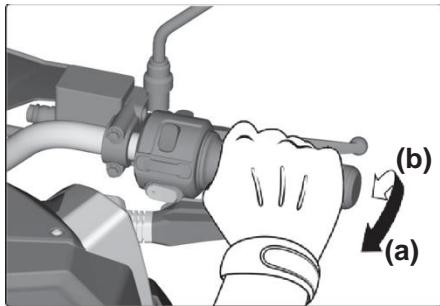
車両から離れる際には、必ずパワースイッチがOFFまたはハンドルロックの位置にあることを確認しましょう。

パワースイッチがOFFの場合、ステアリングロックを行うことはできません。ステアリングロックを行う際には、一度パワースイッチを押し込み、電源を投入してから行ってください。

パワースイッチインジケーターが完全に消灯するまでは、オーナー以外のだれでもキー操作が可能です。車両を離れる際には、必ずパワースイッチが完全に消灯していることを確認して下さい。

走り出そう

車両を始動する前に、周囲の交通状況をよく確かめましょう。後写鏡を調整し、ウィンカーを点灯させ、向かおうとする方向を明示してから発進してください。



- 1 主電源を入れ、サイドスタンドを格納します。主電源の入れ方については、29ページをご参照ください。
 - 2 ハンドルバー右側の電子スタートスイッチを押します。P ギア（パーキングモードインジケーター）が消灯し、READYインジケーターが点灯すれば、走り出すことが可能になります。
 - READYインジケーター（表示灯）が点灯しない場合は、モーターは動作しませんから、走り出すこともできません。
 - 3 アクセルの開閉（加速と減速）について

加速：スロットルホルダーを手前側（図の(a)）に回します。

減速：スロットルホルダーを奥側（図の(b)）に回します。
 - 4 カーブに接近したら減速し、カーブの出口が見えたら徐々にスロットルを開けて車体を安定させましょう。
- 方向指示器（ウィンカー）を必要に応じて必ず使用してください。



ブレーキ（制動）

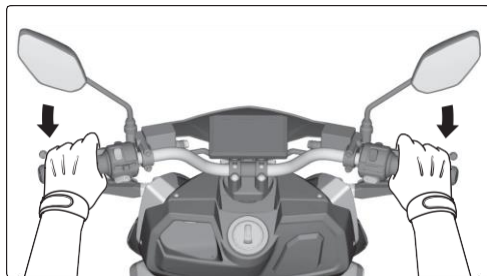
スロットルを閉め、左右のブレーキレバー（前と後ろのブレーキ）を同時に丁寧に引きます。車両後部に設置されているブレーキライトが、ブレーキを動作させると点灯します。

警告

- ブレーキレバーに不注意に過大な力をかけたり、急ブレーキを行わないように注意しましょう。特に車体を傾けているときなどは、車両がスリップしたり、転倒につながる恐れがあります。
- 濡れている路面でのブレーキはタイヤが滑るなどの危険をはらんでいます。スピードを落とし、注意深く運転しましょう。
- 長く、急な坂道などでは、度重なるブレーキの使用によってブレーキシステムがオーバーヒートを起こし、ブレーキの能力に影響を及ぼす恐れがあります。安全のため、前後のブレーキを同時に使用し、ポンピングブレーキを活用するなどして、徐々にスピードを低下させましょう。

注意

カーブを旋回するときや、車両を停止させるときには、前もって車両を減速させる必要があります。まず方向指示器（ウィンカー）を出し、周囲の交通状況、特に側方や後方から接近する車両をよく確認して、ハンドルバーをきちんと保持しつつ、ブレーキレバーを引き、徐々に車両を減速させましょう。



駐車

車両を安定した、平滑な路面に停め、サイドスタンドで静止させましょう。次いで、ステアリング（ハンドルバー）ロックを施錠します。もし坂道や不安定な路面で停めなくてはならない場合でも、確実に静止状態となるように停車し、車体が勝手に動いたり倒れたりしないよう注意しましょう。





1 パワースイッチを  OFFにします。

2 サイドスタンドを下げましょう。

車両をゆっくりと左側に傾け、サイドスタンドが車体を支えるようにします。

3 パワースイッチを左に回転させ、ステアリング（ハンドルバー）ロックを行います。
P31をご参照ください。

注意

車両から離れる際には、必ずパワースイッチをOFF、または施錠（ロック）の位置に
すること。  

インジケーターがすべて消灯するまでは、持ち主以外の誰かが車両を持ち出してしまうことが可能です。車両を離れる前に、すべての電源がオフになっていることを必ず確認して下さい。



FW-06とバッテリーの取り扱いについて

メインバッテリーには以下のような特徴があります

- メインバッテリーは充放電を繰り返しますため、バッテリーの容量は徐々に減少していく傾向にあります。バッテリーの容量が減少するにつれて、最大走行可能距離は、メモリが満充電を指していても、徐々に減少していきます。
- 走行環境や車両の整備状態によって、バッテリーの放電能力も徐々に減少していきます。走行可能距離は、特に暑かったり、寒かったりする条件では減少しがちなものです。
- 長期間にわたって車両を使用しない場合、メインバッテリーは自動的にスリープモードに入ります。車両のVCUは12Vの小さなバッテリーで駆動されています。もしこの12Vバッテリーが充電切れの場合、VCUはBMSシステムを起動し、メインバッテリーから12Vバッテリーに補充電を行います。12Vバッテリーが満充電になると、メインバッテリーは再びスリープモードに入りますが、12VバッテリーはVCU制御のための電力を供給し続けるということになります。

注意

- 双方のバッテリーが充電切れになると、車両のアラームが起動しなくなり、東南へのリスクが高まります。そうなる前にバッテリーを充電してください。
- バッテリーは自然放電を行います。このため車両を長期間使用しないと、再始動できなくなる恐れがあります。
- もし長期間にわたり車両を保管し、かつバッテリーを良好に保ちたいのであれば、3か月に1度程度の補充電を行い、バッテリーの充電率を40-60%にしておいてください。
- 長期間にわたる保管によって完全放電し、再始動できない場合は、チャージャーに接続し、最低でも30分以上充電したのちに、再始動を試みてください。
- バッテリーの寿命を延ばすためにも、完全放電は避け、こまめに充電するよう心がけてください。

必ず下記の規則を遵守してください。

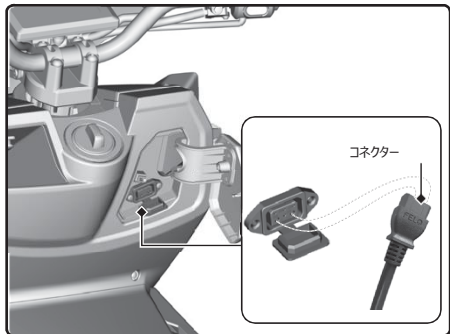
- メインバッテリーは車体に搭載された者のみを使用し、他ブランドや他モデルなどのバッテリーを流用しないこと。
- バッテリーを水分や飲料、酸性性の液体などに接触させないこと。
- バッテリーを熱源や火、可燃性あるいは爆発性のガス、液体等に近づけないこと。
- バッテリーに直接、物理的に激しい衝撃を加えないこと。
- バッテリーの端子部にほかの金属を接触させないこと。
- バッテリーのオーバーヒートや発煙、異臭などの異常を検知した場合は、車両のご使用を直ちに中止し、車両から離れ、お買い求めの販売店に連絡してください。


警告

- バッテリーは正しく取り扱わないと激しい電気ショックや火災といった事故を引き起こし、死亡事故や大けがにつながる恐れがあります。
- 廃棄するバッテリーをご自身で分解しないこと。廃棄またはリサイクルについては、専門の業者に依頼すること。
- 車両を使用中、あるいは保管中に以下の一つにでも該当するような事情が見られた場合、バッテリーの保証は適用されません。
 - 定期的な補充電なしに3か月以上放置した場合（P37参照）。
 - 車両の転倒や事故、浸水、火災、あるいはお客さまによる改造などによってメインバッテリーが損傷を受けた場合。
 - バッテリー残量が10%以下で、かつ7日以上放置された過放電の場合。
 - 車体の保証期間が満了し、かつバッテリーの能力がその期待値の70%を下回った場合（車両の保証は、出荷日から計算されます）。

充電方法

充電には必ず車両に付属する専用の充電器を使用すること。



充電時には必ずパワースイッチをOFF  にすること。充電ポートのラッド（ふた）を開け、チャージャーから延びる充電コネクターを充電ポートに挿入し、充電してください。

充電できる環境

バッテリーの充電には、以下のような条件下で行ってください。

- 車両を安定した、水平の路面に駐車すること。
- 周辺温度は0℃～40℃の範囲にあるようにして充電してください。
- よく換気され、湿気の少ない環境で充電してください。
- 法規制等で充電が認められた場所で充電を行ってください。

充電時間

完全放電状態のバッテリーを満充電するには、おおむね6時間ほど必要です。また、充電時間は高温時や低温時など周辺の温度でも変化します。なお、12時間以上バッテリーチャージャーを接続しっぱなしにすることは、バッテリーの寿命を著しく縮める恐れがあります。決して行わないでください。

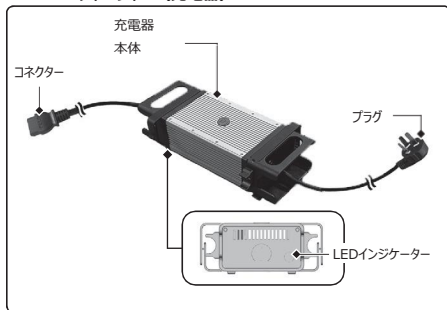


ライディング・ガイドライン

充電器について

充電器は直射日光や降雨を避けて保管してください。充電中は、充電状況を車両のディスプレイで確認することが可能です。

TYPE-1 チャージャー（充電器）

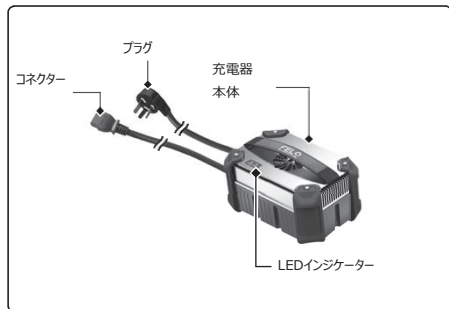


充電器の表示

充電器のインジケータ上での表示と状態	
充電器の状態	インジケータ の表示
スタンバイ（充電待機中）	赤色のインジケータが点灯
充電中-50%以下	赤色のインジケータが点滅
充電中-50%以上	黄色のインジケータが点滅
満充電	緑色のインジケータが点滅
充電完了	緑色のインジケータが点灯
過充電、もしくは短絡エラー	赤色及び緑色のインジケータが交互に点滅
過充電、もしくは開放（接続）エラー	赤、緑、赤の順番でインジケータが交互に点滅
過熱状態	赤、緑、赤、緑の順番でインジケータが交互に点滅
逆接続エラー	赤、緑、赤、緑、赤の順番で交互に点滅
バッテリーエラー	赤、緑、赤、緑、赤、緑の順に交互に点滅

バッテリー、あるいは充電器に異常が見られた場合は、速やかにお買い求めの販売店にご連絡ください。

TYPE-2 チャージャー（充電器）



充電器の表示：

充電器のインジケータ上での表示と状態			
	充電器の状態	インジケータ表示	備考
RUN	スタンバイ	緑色常時点灯	
	充電中	緑色点滅	
	充電完了	緑色常時点灯	
	供給なし（短絡、電力過少、逆接続など）	赤及び緑が0.5秒ごとに交互に点滅	出力電圧を点検
ALM	接続エラー	黄色（赤と緑の混色）点滅	接続ケーブルを点検
	AC入力の変異	黄色（赤と緑の混色）常時点灯	AC入力電圧を点検
	過剰出力	赤色点滅	出力側が正しく接続されているか、出力電圧は正しいかを点検。
	内部過熱	赤色常時点灯	

点滅の優先順位：異常入力> 異常出力> 電力供給なし> 接続不良> 内部異常過熱



充電器の使用方法について

以下の各項をよく順守して充電器を使用してください。

- バッテリーを充電器を使用して充電する際には、まず充電器を車両に接続し、その後コンセントに接続してください。クリック音が聞こえればそれは通常の動作状態です。
- 充電終了時は、先にコンセントから電源を抜き、次いで車体からケーブルを外すこと。
- 充電器はFW-06のために専用に設計されたものであり、他のモーターサイクルに使用すると損傷させる恐れがあります。
- DC（直流）出力は+/-で表示されています。使用中は適正にこの出力範囲内で賄われていることを確認して下さい。
- ACアダプターを水に浸さないこと。プラグ部分やアダプターが水に漬かった場合は充電器の使用を中止してください。
- 充電中は火や火花の発生する場所、可燃性のガスの周辺から遠ざかること。
- 充電器は使用中は熱を持ちます。したがってよく換気できる空間で、また可燃性のものの上や周辺で使用しないこと。
- 充電器の最大出力は直流24Vに達します。安全に留意して取り扱い、分解しないこと。
- 充電器は空冷式です。このため、冷却ファンの音が充電中に響くことは異常ではありません。
- もし充電器本体やソケット、ケーブル等に異常が見られた場合、充電器の使用を中止し、お買い求めの販売店に相談し必要な部品交換を行ってください。
- 車体カバーの下などで充電しないこと。充電中はよく換気された環境下で行うこと。

- 雷雨の恐れがあるときにはバッテリー充電を行わないこと。
- 充電器を使用するコンセントは独立させ、多くのほかの電化製品を同時に接続しないこと。
- 充電器のプラグを抜くときはケーブルを引っ張らないこと。
- 充電完了後に、さらに充電を追加して行わないこと。
- 充電器の使用前にこのユーザーマニュアルを熟読のこと。インジケーターが異常を示したり、充電器の表面が過熱しすぎている場合、充電を即座に中止し、お買い求めの販売店に点検を依頼すること。

警告

万が一車両もしくはバッテリーから火災が発生した場合、以下の手順に従って対処してください：

- バッテリーから煙が発生した場合、車両から即座に離れ、消防に連絡を取り、火災の発生に備えて消化体制を整えること。
- 粉末消火器または電子消火器は使用可能です。火災が手に負えない場合は即座に消防に通報し助けを乞うこと。
- 消火完了後、お買い求めの販売店に連絡し、バッテリーの処分について相談すること。ご自身で廃棄しないこと。
- 車両の電源は火災発生箇所によっては自動で遮断されないことがあります。消火された際には、主電源が切れていることを確認すること。



定期メンテナンスは重要です！

常にご自身の車両をきちんとメンテナンスしておくことは重要です。これはオーナーご自身の安全のためにも、またそのほかの財産をお守りいただくためにも、さらにはFW-06の能力を最大限に発揮させ、存分にお楽しみいただき、万が一の事故や損傷からお守りいただくためにも極めて重要です。

警告

指定されているメンテナンスを怠ったり、必要な修理を怠った場合、走行中に深刻な事故などを引き起こす恐れがあります。

本ユーザーマニュアルに記載されている情報を熟読し、点検項目に従って適切なタイミングでメンテナンスを実施しましょう。



メンテナンススケジュール

						2年毎に実施	
		1年毎（毎年）に実施					
		10,000km毎に実施					
		5,000km毎に実施					
		初回1,000km走行後に実施					
項目		始業前点検					
*	ブレーキディスクの点検		○	●	●	●	●
*	フロントブレーキパッドの点検	I	○	●	●	●	●
*	リアブレーキパッドの点検	I	○	●	●	●	●
*	フロントブレーキフルードの点検（液量など）	I	○	●	●	●	●
*	リアブレーキフルードの点検（液量など）	I	○	●	●	●	●
*	ブレーキホース、ラインの点検（損傷の有無など）		○	●	●	●	●
*	ステアリングヘッドベアリングの点検（クリアランスなど）		○	●	●	●	●
*	ステアリングコラムベアリングへの注油		○	●	●	●	●
*	前後タイヤの点検（損耗、傷など）	I	○	●	●	●	●
*	前後タイヤの空気圧の点検	I	○	●	●	●	●
*	前後ショックユニットの点検（オイル漏れなど）	I	○	●	●	●	●
*	灯火類の点検（動作など）	I	○	●	●	●	●
*	ギアオイルの交換		○		●	●	●
*	サイドスタンドの点検（ボルトの緩みなど）		○	●	●	●	●
*	ドライブベルトの点検（痛み、傷など、必要に応じ交換）	I		●	●	●	●
*	ホイールベアリングの点検（緩み、痛みなど）		○	●	●	●	●

					1年毎（毎年）に実施		2年毎に実施
					10,000km毎に実施		
					5,000km毎に実施		
		初回1,000km走行後に実施					
項目		始業前点検					
*	車両全体の部品やケーブル類の点検	I	○	●	●	●	●
	メインフレームの点検				●		●
	ロッカーアーム（スイングユニット）の点検				●		●
	車両全体のボルト、ナット、ファスナーの点検		○	●	●	●	●
	車両全体のラバー部品の点検		○	●	●	●	●
*	ロッカーアーム（スイングユニット）ベアリングの点検（スムーズな動作、固着等の有無）		○	●	●	●	●
	可動部品への注油、潤滑と点検		○	●	●	●	●
*	モーター及びギアボックス・プーリーの点検		○	●	●	●	●
*	ワイヤリングハーネスの点検		○	●	●	●	●
*	フロントブレーキフルードの交換						●
*	リアブレーキフルードの交換						●

*：必ず実施すべき項目

○：指定時期に実施すべき項目

●：定期点検項目

I：点検項目（必要に応じて清掃、調整、潤滑、注油、交換を行うこと）



部品のメンテナンスについて

部品の交換

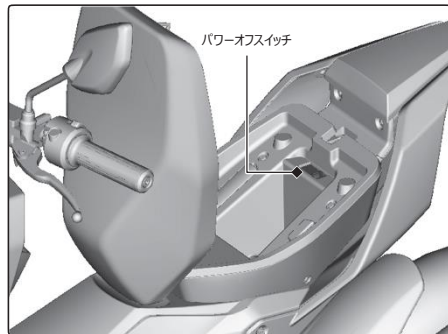
車両の安全性や信頼性を担保するため、必ず純正指定部品をご使用ください。
部品の交換が必要と考えられる場合には、必ずお買い求めの正規販売店にまずご相談ください。

注意

非純正部品の使用は車両の安全性を損ない、場合によっては事故、けがの原因となり、最悪死亡事故につながりかねません。必ず、車両のために専用に設計された純正部品を使用してください。

パワーオフスイッチ（サーキットブレイカー）

パワーオフスイッチはシート下であり、サーキットブレイカーとして全電源を遮断します。



モーター及びコントローラー

コントローラーは、FW-06の中でも最も重要な部品の一つです。コントローラーは車両に装着されているモーターの始動並びに動作をつかさどる中心部品なのです。

以下の原則を順守してください。

- モーターを改造しないこと。メーカーが認めない改造は、モーターが発火したり、暴走して事故を引き起こす恐れがあります。
- 深い水たまりの中などを走行しないこと。リアホイールのアクスル部（中心部）を超える水位の中に突入しないこと。
- モーターの車体への固定が確実になされているか、頻繁に点検すること。もし緩みなどを発見した場合、お買い求めの販売店に連絡し、締め直しなどの手配を行うこと。

注意

降雨の中カバーなどないままに長時間車両を放置するような場合、コントローラーやモーターに水が浸入していないかを、走行前に点検してください。コントローラーやモーター内部への水分の侵入が確認できた場合は、内部が完全に乾燥するまでは走行しないようにしてください。

タイヤ空気圧の点検

タイヤの表面からその状態を点検するほか、空気圧を少なくとも毎月1回、あるいはタイヤ空気圧の不足を感じた時にはいつでも、点検すること。

タイヤ空気圧は冷間時に行うこと。推奨タイヤ空気圧は以下の通り。

1名乗車時

フロント：200kpa

リア：200kpa

2名乗車時

フロント：225kpa

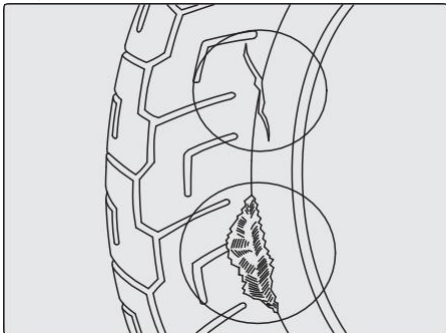
リア：225kpa

警告

正常な空気圧にない状態で車両を運転することは、車両のコントロールを失い、事故を引き起こす原因となる恐れがあります。

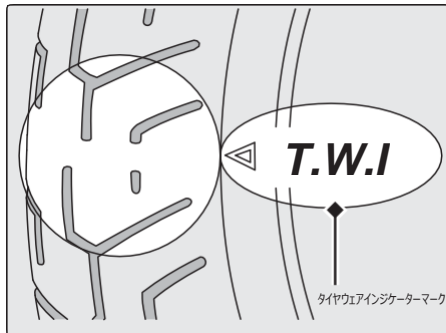


タイヤの損傷の点検



タイヤの切れ、ひび割れ、内容物や構成物の露出、異常損耗、釘や石などの異物の噛みこみや刺さりを点検しましょう。タイヤ表面のみならず溝の内部やサイドウォールもよく点検すること。また、サイドウォールの異常な膨らみなどの有無も点検すること。

タイヤの溝の深さの点検



タイヤの溝の残量点検には、サイドウォールに用意されたインジケーターマーク部の溝を確認します。マークが露出するほど損耗したタイヤは、速やかに交換してください。

溝の深さ：2mm以上あること

警告

損耗したタイヤで車両を走らせることは、車両の能力を大幅に減じ、また事故などの要因になりかねません。

下記各項を遵守すること

- タイヤ交換は推奨タイヤ若しくは純正指定タイヤ、あるいは同等品を使用し、必ずサイズ、構造、スピードレーティング、許容荷重が指定値にあるものを使用すること。
- この車両はチューブレスタイヤが指定です。チューブを使用しないこと。チューブの使用は過熱の原因になり、場合によってはバースト（タイヤ破裂）の原因になりかねません。
- チューブレス専用タイヤを使用すること。この車両のリムはチューブレスタイヤ使用を前提に設計されています。
- 許容荷重を超えて積載しないこと。事故の原因になりかねません。
- タイヤ交換を含むホイール及びブレーキ関連部品の着脱、交換は、必ずお買い求めの正規販売店で行ってください。

警告

適合しないタイヤの装着は、車両の安定性を損ね、転倒事故や死亡事故につながる恐れがあります。

本ユーザーマニュアルに指定されたサイズ、形式のタイヤを使用しましょう（P61参照）。



ブレーキフルード（液）の点検

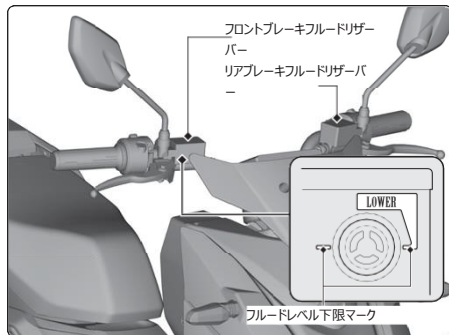
ハンドルバーを操作し、点検窓を見ながら、ブレーキフルードの量が下限マーク以上にあることを確認して下さい。

もしブレーキフルードの量が下限マークを下回っていたり、ブレーキレバーを握ったときの遊びが上限を上回っているような場合、車両をお買い求めの販売店にお持ちいただき、点検を受けてください。

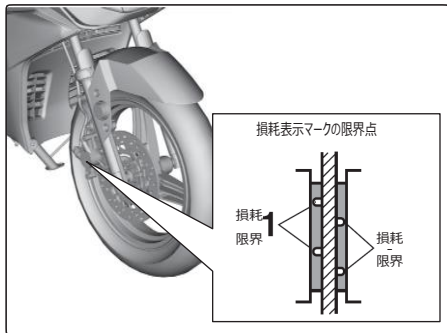
推奨ブレーキフルード：DOT3もしくは同等以上
MOTUL DOT3&4 BRAKE FLUID

注意

ブレーキフルードは、プラスチックや塗装面に深刻なダメージを与えることがあります。万が一フルードが溢れ、付着した場合は速やかに拭き取り、付着面を完全に洗浄してください。



ブレーキパッドの点検



ブレーキパッドの残量（損耗マーク）を点検します。

もしブレーキパッドのウェアインジケーター（損耗表示マーク）が見えないところまで摩耗していたら、パッドを交換する必要があります。

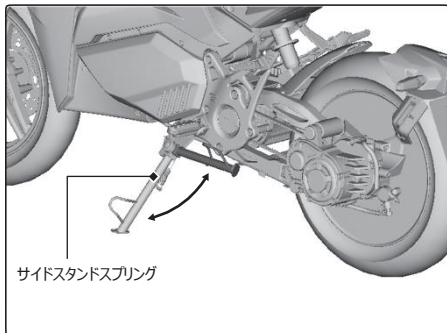
フロントブレーキパッドの厚み：3.0mm（損耗限界マークのベースまで）

注意

- ブレーキパッドはお買い求めの販売店で交換してください。パッドは2枚一組です。必ず2枚とも交換すること。
- パッドが著しく摩耗していることは、安全性に影響します。必ず適切な時期に交換してください。



サイドスタンド




点検

- サイドスタンドがスムーズに動作することを確認しましょう。サイドスタンドの動作が硬かったり、うまく動かない時は、ピボット部を清掃し、清潔なグリースを塗布しましょう。
- サイドスタンドスプリングが損傷していないか、弾力性は大丈夫かを点検。
- 車両に座り、サイドスタンドを格納します。
- パワーキーをONにし、サイドスタンドを出し切ってください。スタンドが出た状態では、スタートスイッチを押してスロットルをあけても、車体は動き出さないことを確認して下さい。

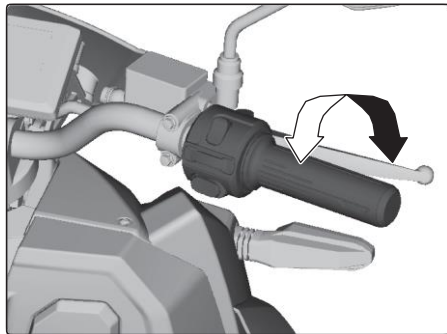
もしモーターが稼働状態になり、サイドスタンドが出ていても車両が走り出すようなら、サイドスタンド若しくはスイッチの不良が疑われます。速やかにご購入の販売店に車両をお持ちください。

スピードコントロール (スロットル)

点検

パワースイッチを  OFFにし、スロットルチューブが引っ掛かりなく全開になるか、また全開時からスムーズに全閉位置に戻るかを点検、確認すること。

スロットルがスムーズに作動しない場合、また自動的に全閉に戻らない場合は、お買い求めの販売店に連絡し、点検、調整（場合によっては交換）を行ってください。



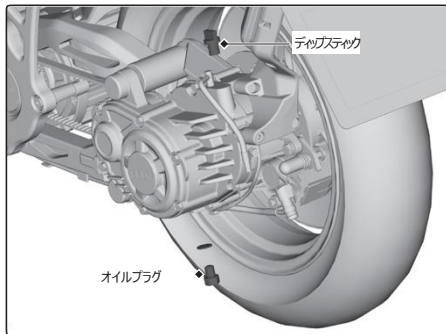


ギアオイルの交換

- モーターサイクルスタンドなどを使用して車体を直立に保持し、前後のホイールが接地しないようにしてください。
- オイルトレイなどをギアボックス下部に置き、オイルをこぼさないようにしたうえで、ディップスティック・キャップを取り除き、次いでオイルプラグを外し、内部のギアオイルを完全に抜き去ります。
- オイルプラグを取り付け、下記指定のギアボックスオイルを350cc入れ、満たします。


指定オイル : GL5 80W-90

推奨品 : MOTUL GEARBOX 80W-90 GL5






車両が走行しない

パワースイッチを  ONの位置にしても、ディスプレイ（メーター）に何も表示されない場合

以下の各項を点検、実行してください：

- メインバッテリーが十分に充電されていることを確認して下さい。長期間充電していないことが原因で再起動できない場合は、充電器に接続し、最低30-60分ほど補充充電を行ったうえで、再始動を試みてください。
- メインバッテリーの温度が異常に高温になっていないか点検してください。

長く斜度の厳しい坂を長時間にわたって登ったり、全開走行を連続させた場合、バッテリー温度センサーが機能して車両を守るために車両を再始動させないことがあります。パワースイッチを  OFFの位置にし、メインバッテリーの温度が下がるまでお待ちください。温度が十分下がれば、再始動可能になります。

- メインサーキットブレイカーがONになっていることを確認して下さい。
- サイドスタンドが格納されていることを確認して下さい。
- スロットルが全閉になっていることを確認して下さい。
- ブレーキレバーが完全に開放されていることを確認して下さい。

以上を確認しても走行できない場合、お買い求めの正規販売店に連絡し、必要な修理作業等を受けてください。

メインバッテリーが充電できない

以下の各項を点検、実行してください。

- きわめて高温下の条件、例えば直射日光の下での充電を行おうとはしていませんか？
- 充電はP38で示されたような条件で行ってください。
- 充電を走行直後に開始しようとしていませんか？
- きわめて低温下で充電しようとしていませんか？
- プラグ類はそれぞれのターミナルに確実に挿入されていますか？
- 充電環境に異常はありませんか？ 充電ポートには十分な電力が供給されていますか？
- 充電器のケーブルやプラグに異常や損傷はありませんか？

もしこれらの点を確認してもなお問題が解決できない場合は、お買い求めの正規販売店にご相談ください。



スマートキーが正常に作動しない時は

スマートキーシステムが正常に作動しない場合、以下の各項を試みてください。

- まず、お手持ちのスマートキーが通常の動作範囲内にあることをご確認ください。
- スマートキーのバッテリーが十分に残っていることを確認して下さい。不足、不良の場合はバッテリーを交換して下さい。
- スマートキーシステムのコミュニケーションエラーがないかを確認して下さい。このシステムは低周波電波を使用しています。このため、以下のような条件下では正常に機能しない恐れがあります。
 - 周辺に強力な電波やノイズを発生する建物などはありませんか？（テレビ塔、発電所、ラジオ局、空港など）
 - スマートキーをほかの電波機器、例えばラップトップコンピューターやラジオ、携帯電話などと一緒に持ち歩いてはいませんか？
 - スマートキーが金属に接触していたり金属製のカバーなどでおおわれていませんか？
- ご使用のスマートキーが本体と紐づけられているものか確認して下さい。本体と紐づけられていないスマートキーでは、ご使用いただくことはできません。
- スマートキーに損傷がないことを確認して下さい。もし損傷等があつて使えない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 車両のメインバッテリーの状態、特に接続などをよく点検してください。メインバッテリーの電圧が硬化している場合などは、お買い求めの販売店にご相談ください。

上記の理由以外でシステムが起動できない場合は、お買い求めの販売店に連絡してください。

タイヤのパンク

タイヤパンク修理やホイールの脱着は、高度な専門能力が必要です。必ずお買い求めの正規販売店にご相談ください。

警告

補修したタイヤで長時間走行を続けることは、補修個所の損耗などの恐れがあり、事故等につながる恐れがあります。一時的な補修の場合、時速50km/h以下で走行するなど、ゆっくりと走行し、新品のタイヤになるべく早く交換してください。

灯火類の異常

お客様のFW-06のすべての灯火類はLEDであり、電球は使用していません。灯火類に異常があった場合は、速やかにお買い求めの正規販売店に連絡し、点検、修理を行ってください。

| ターンシグナルライト（ウィンカー）の異常

ターンシグナルライト（ウィンカー）に異常がある場合、異常が発生したライトの同じ側の正常な方のライトが、ウィンカースイッチを入れると、激しく点滅します（例えば、右前のウィンカーに異常があると、左後ろのウィンカーが激しく点滅します）。同時に、ダッシュボード（メーターパネル）内の方向指示アイコンも同様に激しく点滅します。



車両のお手入れについて

定期的に車体を洗浄しまた磨くことは、愛車の寿命を長く保たせることにつながります。美しく保たれたモーターサイクルは、万が一の異常なども発見しやすいものです。

潮風にさらされる環境下や凍結防止剤等の影響を受けた後は、車体の錆を加速させることにもつながりかねません。

これらを念頭に、モーターサイクルのお乗りになられた後には、車体をよく洗浄し、美しく保つように心がけましょう。

- 洗車
洗車開始前に、まずモーターやブレーキなどの熱を持ちやすい箇所が冷えるのを待ちましょう。
- 1 車両全体を水でよくすすぎ、泥などを落とします。
- 2 必要に応じて、中性洗剤を用いて、スポンジや柔らかい布などで、ボディ表面の埃、汚れや泥などを洗い流します。
- ヘッドライトレンズやボディパネルなどのプラスチック部品の取り扱いには、こすり傷などがつかないように、一層の注意を払ってお取り扱いください。また、水分が電装部品に侵入しないよう注意してください。
- 3 車両全体を十分な量の水ですすぎ、清潔で柔らかい布などで拭き上げます。
- 4 最後に、すべての可動部を潤滑します。
- 潤滑油脂やケミカルなどがブレーキ関連部品やタイヤなどに付着しないよう十分注意してください。部品の性能を低下させ、事故につながりかねません。

5 外装部品には薄くワックスを塗布し、傷やさびなどからボディを保護しましょう。

- 過度に強力な洗浄剤やケミカルなどの使用は控えましょう。こうしたケミカルは化学組成によっては金属部分やプラスチック部品の表面コーティング、塗装などを侵す恐れがあります。
- タイヤやブレーキにワックスを塗布しないこと。
- マット（艶消し）塗装面には、ワックスを使用しないこと。
- 洗車にあたっての準備

洗車にあたっては以下の各項に十分留意してください。

- 高圧洗車機は使用しないこと。
高圧洗車機は可動部の潤滑を痛めるばかりか、電装品も痛めます。
- － ブレーキを乾燥させること
ブレーキ表面に付着した水分は制動力に影響する恐れがあります。洗車後は低速度で走行し、ポンピングブレーキ灯でブレーキを温め、乾燥させましょう。
- － メインバッテリーを水で洗浄したり、洗剤を使用して洗浄しないこと。
始動不能や、機能の異常につながる恐れがあります。
- － シート下を直接水で洗浄しないこと。
もし水分がシート下収納に溜まるようなことがあると、内部の収納品が濡れ、傷むことになる恐れがあります。

- ヘッドライト周辺の部品を直接濡らさないこと。ヘッドライトの内側が曇ったり、水滴がついたりして、ヘッドライトの明るさや見え方に影響を及ぼす恐れがあります。もし雨天走行後などで、大量の水分がヘッドライト内に溜まっているような場合は、お買い求めの正規販売店にご相談ください。
- ワックスやコンパウンド入りの洗浄剤は、マット（艶消し）塗装面には使用しないこと。
マット（艶消し）塗装面は、十分な水を注ぎながら、必要に応じて中性洗剤を使用して、柔らかいスポンジや布などで洗浄してください。拭き上げには、清潔な柔らかい布を用いてください。
- アルミニウム製部品について
アルミニウム製部品は泥や汚れ、塩分、凍結防止剤などの影響を受けやすく、さびやすいものです。アルミニウム製部品は以下の手順で洗浄し、傷などを避けるようにしましょう。
 - 硬質のブラシやスチールワール、研磨剤の入った洗剤などは使用しないこと。
 - 縁石に乗り上げたり、こすったりしないよう注意してください。
- ボディパネル
傷や損傷を防ぐためにも、以下の項目を遵守してください。
 - 十分な水ですすぎながら、柔らかいスポンジで丁寧に洗浄しましょう。
 - 希釈した洗剤を用いて、十分な量の水で洗い流しながら、頑固な汚れを取り除くようにしましょう。
 - ガソリンやブレーキフルード、脱脂剤などをメーターやボディパネル、ヘッドライトなどに使用しないこと。



車両の保管について

もし室外にFW-06を保管される場合、ぜひ車両全体を覆うボディカバーなどを用意いただくことをおすすめします。

- もし長期にわたって車両をご使用にならない場合は、以下の車両保管に関するガイドラインを遵守してください。
 - メインバッテリーの性能低下を避けるためには、車両を暑くならない条件下で保管しましょう。推奨保管温度は0～25℃の間になります。
 - 長期保管の前に、メインバッテリーを満充電にしておきましょう。メインバッテリーの充電残量を、最大2カ月ごとに確認しましょう。

注意

バッテリー残量インジケータバーの表示が1バーしか残っていないような状態で、車両を長期保管しないこと。バッテリーを著しく損耗する原因になります。

- 車両を丁寧に洗浄し、塗装面をワックスで保護しましょう（ただし、つや消し塗装面にはワックスを塗布しないこと）。クロームメッキ部品のすべてに、錆防止オイルを塗布しておくこと。
- メンテナンススタンドなどを用いて車両を水平に保ち、前後のタイヤを地面から浮かせた状態で保管しましょう。
- 降雨の後や厳しい湿気に見舞われた際には、カバーを取り外し、車両を乾燥させましょう。

車両の輸送について

車両を輸送する際には、モーターサイクル専用のトレーラーかフラットなベッド面を有するトラックに、十分なランプやリフトを用いて車両を積み込みできるだけよう準備を整え、また固定できるようストラップを用意しましょう。

輸送する前に、可能な限り車両のフロントタイヤをトランスポーターの進行方向にまっすぐ置くようにしましょう。固定にあたっては、フレームやフロントフォーク基部、リアフォークなど、十分な強度のある部品にストラップを締結し、車両を固定してください。

注意

車両の牽引はトランスミッションに損傷を与える恐れがあります。

もしFW-06を輸送する必要がある場合には、ボディを傷つけないよう柔らかい手袋を装着し、リム、前後ブレーキやボディパーツを十分に保護して車載してください。

環境保護について

モーターサイクルを所有し走らせることは楽しいことですが、同時に私たちは環境を保護する義務も背負っています。

- 正しい洗剤を使いましょう。
洗車時には生分解性の洗剤を使用しましょう。また、オゾン層保護のため、スプレー類はCFCsを使用しないものにしましょう。
- 廃棄物のリサイクルを。
交換、廃棄するエンジンオイル等は地域の規則に準じてリサイクルしましょう。リサイクル規則がわからない場合、地域の役所などに連絡し、廃棄方法やリサイクル商法を確認し、規制に準じてください。使用済みエンジンオイルをそのまま瓶などに入れたり、排水溝に流し入れたり、地面に廃棄することが無いよう願います。使用済みのエンジンオイル、ガソリン、クーラント、その他のケミカルなどは、正しく廃棄またはリサイクルしないと、大気を汚染し、また環境破壊につながりかねません。

－ メインバッテリーの廃棄について

お使いのFW-06が修復可能なダメージを負った場合など、メインバッテリーを廃棄する必要に迫られた場合は、お買い求めの正規販売店に相談してください。



主要諸元

全長*全幅*全高 (mm)	1,830*755*1,095	
軸距 (mm)	1240	
車両重量 (kg)	125	
最大積載荷重 (kg)	150	
最大収納重量(kg)	グローブボックス	1.5
	シート下収納	10
車両総重量(kg)	275	
最大軸荷重(kg)	前	94
	後	181
乗車定員	2	
最小旋回半径 (m)	2.1	
シート高 (mm)	800	
最低地上高 (mm)	162	
キャスト角 (°)	27	
伝達機構	ベルトドライブ	
ブレーキ形式	ディスク	

フロントタイヤサイズ	110-80-14	
リアタイヤサイズ	140-70-14	
タイヤ空気圧 (1名乗車時)	前	200
	後	200
タイヤ空気圧 (2名乗車時)	前	225
	後	225
推奨ブレーキフルード	DOT3	
フロントショックアブソーバー	正立式	
リアショックアブソーバー	油圧ダンパー式	
モーター形式	中央配置式	
モーター定格出力 (W)	5,000	
モーター最高出力 (W)	10,000	
最高速 (km/h)	110	
最大走行距離*NEDC (km)	140	
最大登坂角 (%)	15%	

* NEDCは規格通りの条件で60km/hで定値走行したデータに基づくものです。実際の走行可能距離は風、路面状況、加減速操作など様々な条件により変化します。あくまでも参考値とお考え下さい。

* 商品の写真、イラスト、機能など、本マニュアルで使用されているものは参考値です。実際の商品（現車）を優先してお考え下さい。

* 本マニュアルのデータの所有権はFELO Technology (Shanghai) Co., Ltd.に、また翻訳著作権はMOTORISTS LLCに所属します。

リチウムイオンバッテリー

セル・ブランド	EVE
セル形式	INP58P
セルの容量 (mAh)	58,000
パッケージメーカー	Guowei
接続/制御形式	26S 1P
バッテリー重量(kg)	35
バッテリー容量	94.1 V 58 Ah
バッテリー搭載位置	ボディ中央
可搬性	取り外し不可

電装部品仕様

ヘッドライト	LED
フロントウインカー	LED
リアウインカー	LED
テール/ストップ	LED
ダッシュボード (メーター)	LCD
サイドリフレクター	装着済み
リアリフレクター	装着済み

フューズ

パワーオフスイッチ	63 A ×1
フューズ	5 A ×1, 7A ×1



A		C	
ABS（アンチロックブレーキシステム）	26	発進できない	54
アクセサリと改造	8	正常に動作しない	55
バッテリー充電	32	充電器	39
ブレーキ	7	車台番号	4
ブレーキフルード	49	チェック（点検）	47
ブレーキパッド	50	クッション	30
ブレーキング（制動）	35	D	
灯火類の不灯	56	ディマースイッチ	14
バーグラーアラームシステム	26	E	
		電装部品について	11

エレクトリカル・スタートスイッチ..... 15

環境問題 60

ETCS 27

F

FELO MOTO APP 5

G

グローブボックス 19

H

非常灯（ハザード）スイッチ 15

ホーンボタン..... 14

充電方法 38

I

インジケータ 13

K

キー..... 55

L

積載にあたって..... 8

ロースピードモード..... 22

M

メインアッセンブリー..... 61

主要なコンポーネント..... 9

メンテナンス 42, 57



メカニカルキー.....	17	パワースイッチ.....	16
メーター.....	12	安全走行のための警告.....	6
モーター及びコントローラー.....	46	走り始める前の準備.....	28
N		製品ラベル.....	4
ノーマルモード.....	22	R	
P		坂道での停車.....	27
駐車.....	36	ギアオイルの交換.....	53
部品交換について.....	45	ライディング.....	34
メインバッテリー.....	7	ライディングギア.....	6
メインバッテリー・充電ポート.....	20	S	
パワーオフスイッチ.....	45	サイドスタンド.....	51

スマートキー	17	輸送について.....	60
スロットル	52	接地面の深さ.....	47
スポーツモード.....	22	ウインカースイッチ.....	14
スポーツモードスイッチ(Sギア).....	14	U	
ステアリング（ハンドルバー）ロック.....	31	USB充電ポート.....	21
シート下収納.....	59	V	
シート下収納BOX.....	18	VCU テクニカルパラメーター	23
T			
テクニカルパラメーター（スマートキー）.....	23		
タイヤ空気圧	46		
タイヤのパンク	55		



FELO Technology(Shanghai) Co., Ltd.

📍 Room D1-101, No.6000, Shenzhuan Highway,
Songjiang District, Shanghai

☎ +86-21-6785-9325 +86 0510-8877 0026

✉ info@front-design.cn